

第11回「学ぶ土台づくり」推進連絡会議 協議内容（委員発言要旨）

【開催日時】 平成29年5月29日（月） 午後1時30分から午後3時30分まで

【開催場所】 宮城県行政庁舎 4階 特別会議室（仙台市青葉区本町3-8-1）

【協議】

1 第3期「学ぶ土台づくり」推進計画の策定について

（質）・ 第3期計画の重点について、現時点での方向性をどう考えているか。（川島座長）

→ 教員・保育士の資質向上に向けての手立てを打ち出したいと考えている。（事務局）

（質）・ 現状として資質不十分と捉えているのか。（川島座長）

→ 必ずしも現状が不十分ということではない。幼稚園教育要領等の改訂やこれまで実施してきた研修等において受けたくても受けられないという現場の事情等を踏まえ、研修を受けやすくしたり、社会の動きにタイムリーな内容の研修にするなどのイメージを持っている。（事務局）

2 第2期「学ぶ土台づくり」推進計画の検証等について

（質）・ 目標値の根拠は。目標値が非常に高い項目もある。（佐藤委員）

→ 基本的な考え方として、行動については、過去3年間の経年変化の平均に10%の数値を加えたものを5%刻みに整えて設定している。広報や告知については、過去3年間の経年変化の平均に20%の数値を加えたものを5%刻みに整えて設定している。（事務局）

（質）・ アンケートの対象者数を教えてほしい。（伊勢委員）

→ 862施設に送付し、施設から在籍する園児の保護者へ依頼をいただいている。（事務局）

<意見交換>「第3期『学ぶ土台づくり』推進計画における主な取組について」

★ 幼稚園教員・保育士等の資質向上について	
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none">・ 統廃合や認定こども園化の問題もあるが、まずは公立幼稚園・保育所・認定こども園を全体的に機能させ、公開保育等の保育の中から学び合うような研修を行う企画をしていかなければならないのではないかと。・ 公開保育等の研修に大学から研究者が参画し、専門的な立場からアドバイスを加えていくことで、研修の質が高まっていくのではないかと。
松ヶ根委員	<ul style="list-style-type: none">・ 一部しか参加できない園外研修では時間的に共有することが難しく、また、実際見たのと話を聞いただけのものとは違うので、園内研修でワークショップなどを通して質を高めていくのがよいのではないかと。
中鉢委員	<ul style="list-style-type: none">・ 7年以上経験した保育士のキャリアアップ研修について、国としてのガイドラインが6月下旬に出る予定であるので、宮城県保育協議会と県がタイアップするとともに、ブロックごとの研修等も認定してもらいたい。
我妻委員	<ul style="list-style-type: none">・ 現在は、臨時職員や嘱託職員の雇用が増えている。臨時職員は、研修の機会がないので、研修を受ける機会の提供や正規職員の増員が必要である。

横澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 県教委主催の資質向上のための研修と私立幼稚園連合会の研修部が連携し、日程や内容が重ならないように設定すると多くの教員が学べるのではないかと。
熊谷委員	<ul style="list-style-type: none"> 気仙沼市が文部科学省から委託を受けている幼児教育推進体制構築事業の調査研究の中で、公立私立、幼稚園保育所等の違いだけでなく所属長と若い先生方にギャップがあるようなので、所属長向けの研修を計画していくとよいのではないかと。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> 仙台市で行っているスーパーバイズ事業は、大学の先生方に現場へ来ていただき、実際の保育や発達障害等の気になる子への対応等について指導いただくので、一部の教員しか参加できない園外研修とは違い、一つのことをみんなでも考えるよい学びの場になっている。
伊勢委員	<ul style="list-style-type: none"> まずは忙しい現場の当事者である先生方の声を聞き、その研修を本当に望んでいるのか、企画側が検討する必要があるのではないかと。また、研修の方法論も大事かと思う。 情報をその都度流すのではなく、年間を見通して先生方が受けたいと思う研修を受けられるようにし、予算も見直す必要があるのではないかと。
★ 親への普及啓発方法について	
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> どういう保護者の層を対象とするかが難しいが、研修会等に参加する熱心な親たちを地域の核にして、他の保護者を巻き込んだり、情報の発信者になったりしてもらおうとよいのではないかと。
松ヶ根委員	<ul style="list-style-type: none"> 父親の参加が増えている保育参観の機会をうまく利用して、食育や基本的な生活習慣、愛着形成等について啓発できるとよいのではないかと。
新山委員	<ul style="list-style-type: none"> 中学校や高校はカリキュラムの関係で親になるための教育を行うのが難しい面もあるので、教育の分野だけでなく、保健福祉分野でも母子手帳の交付や3、4歳児健診の時期等に、親業について学ぶ機会を設定することも必要ではないかと。 子育ての悩みについて相談にのってもらうことも親としての学びを支援してもらっていると捉えられるのではないかと。
我妻委員	<ul style="list-style-type: none"> 推進計画の子供の育ちの変化の項に記載のある「相手を思いやること、我慢すること」等はとても大切なことと考えるが、学校のように点数で表れるものではないので、親に伝えても説得力がないことが課題である。
横澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 働いている母親たちも参加しやすいように、年度当初に保育参観の日程を知らせたり、休んで参加する父親たちを取り込んでいくとよいのではないかと。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> 保育の現場では親子関係は両極化しており、基本的な生活習慣が身に付いていない子供が増えており、どこに目標を定めるかが難しい。 それぞれの家庭に応じた働きかけの工夫が必要である。

星委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かすリトミックや産後のリセット体操という内容の研修は希望が多いが、家庭教育やしつけ等に関する学ぶ機会への参加や、小学校での授業参観の後の懇談会への出席者が少ないことを考えると、親同士の情報交換の場と思ってもらえると参加率が上がるのではないかな。 ・ 場の提供についてもっと周知させていくために、子育てサポーターなど支援する側の層を厚くしていくとよいのではないかな。 ・ 地域の行事等で親子のふれあいの機会を作り、自然な形で学ぶ機会を増やしていくことなども大切ではないかな。
伊勢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後1, 2年で母となる女子高生もいるので、親になるための教育について学校担当者にも大切さの周知を図る必要があるのではないかな。 ・ 県として作るものは文字が多く、10代で親になる子供たちには伝わらないので、親への普及として視覚的にどうしたらよいか検討するとよいのではないかな。 ・ 幼稚園や保育所も連携協働を進め、地域の方々と一緒に育てていける環境があるとよいのではないかな。
★ その他（幼保小の連携について）	
新山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ アプローチカリキュラムには小学校の目線での意見を、スタートカリキュラムには幼稚園や保育所の目線での意見を入れて内容を見直し、連続した学びを形成するとよいのではないかな。
横澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校と幼稚園、保育所、お互いがお互いの活動を知ることが大切である。
熊谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼市では5歳児の教員と小学校の教員のワークショップを行う予定である。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針も改訂となり、小学校への滑らかな接続のために、どんな部分を育て、小学校でのどんな力につながるかを、保育士一人一人が理解しながら保育できるようなカリキュラムづくりが課題ではないかな。

【川島座長】まとめ

- ・ 幼稚園教員・保育士等の資質向上に関しては、全員研修が難しいことに関して手立てを考える必要がある。コンテンツに関しては、当事者の声を聞き、それに対する研修であれば当事者意識をもって参加する可能性は高くなるのではないかな。また、従来からの座学だけの研修だけではなく、公開保育のような形の方が優れている研修ではないかなという意見もあった。さらに、勤務条件に関しては、恵まれた環境で働いている保育士は少なく、心の余裕がない中で、良い保育はできないと考える。次の目標の中に親だけでなく、保育士のライフ・ワーク・バランスを県として意識しているということを入れるのもよいのではないかな。
- ・ 情報発信に関しては、従来の情報発信が親へ届いていないという意見がいくつかあり、今の親は活字を読まない現状がある。手立てとしては、YouTube や sns を使っていくことを検討してはよいのではないかな。困ったときに自分のスマホからアクセスできるようにするのに県のホームページを使えばあまり予算がかからずできるのではないかな。次の目標として、市町村や小さい単位で、sns 等で子育て中の親と自治体がコミュニケーションを意識してとったり人員を割り振ったりするということを積極的に入れることも個人的にはよいかなと思う。

3 幼児教育に関する実態調査（アンケート）について

(質)・ 園・所に対して「ルルブル」と「学ぶ土台づくり」の項目を削除したのはなぜか。第2期計画の事業評価として残した方がよいのではないか。(新山委員)

→ 単に名前を「知っているか」どうかという質問であったので、聞き方を検討した上で判断する。(事務局)

(質)・ アンケートの家族構成でひとり親等については、聞くことは難しいか。(佐藤委員)

→ より細かな属性を聞くと分析に役立つと思うが、今回はできるだけ回答してもらえようように答えやすさを考えた項目にしている。(事務局)

(質)・ 体験活動に関して親たちが何を求めているのか自由記述してもらうことは可能か。(伊勢委員)

→ 削除した8つの項目について、行っているかどうかを聞き、その上で今後やらせたいものやできない理由を聞く形を検討したい。(事務局)

- ・ 子供の貧困を考えたときに、経済的な問題で体験活動ができる家庭は線引きされるので、日常生活の中でいかに自然体験をしていくかという視点を入れていくことが必要ではないか。さらに、宮城県としてこれから宮城を支える子供たちに大切な親子のふれあいや体験活動をどのようにアンケートに入れ、数値として施策に反映させていくかが大切ではないか。(伊勢委員)
- ・ 保育者に関して、保育上の悩みや自身のライフ・ワーク・バランス、働く上での障害について聞いておくと施策を立てやすくなるのではないか。その際、保育者に対しても個人的に回答してもらおうと、所属長へ気を遣うことなく回答できるのではないか。(川島座長)

(以 上)